

米国木材市場情報レポート

2024年9月

各樹種に対する EUDR の潜在的影響

6月28日付の「Hardwood Review」誌の特集記事では、EU 森林破壊防止規則(EUDR)が予定通り今年末までに正式に発効し、EU 加盟 27 カ国への米国産広葉樹材の輸出が実質的に遮断された場合、英国の米国産広葉樹材に対する需要増加がどのように緩和されるかを検討した。本記事では、この輸出停止措置が米国から欧州及び世界への輸出に与える影響を理解するために、27 の EU 加盟国に輸出された米国産広葉樹材の樹種別の数量と価格の傾向を分析している。これらはあくまでも EU27 ヶ国への木材出荷への直接的な影響であることに留意されたい。EUDR は、米国産広葉樹材から部品や完成品を製造し、EU27 ヶ国に輸出している米国の国内外メーカーの木材需要も実質的に減少させるであろう。

EU27 ヶ国の合計:

2024 年上半期、米国は EU27 カ国に 99,279 立米(4,200 万ボードフィート(MMBF))の広葉樹を輸出した。これは、欧州 45 カ国への広葉樹出荷総量の 58%を占めている。つまり、EU27 ヶ国への出荷量が前年同期比で 13%減少し、ヨーロッパの総需要に占める EU 市場の割合は 10%減少した。EU27 ヶ国が米国産広葉樹材総輸出額に占める割合も、昨年上半期の 7.8%から今年は 6.6%に減少している。しかし、EU27 カ国の年間生産量約 20 万立米(8400 万立方フィート)は、大きな市場減となるであろう。さらに、世界の各樹種の需要における EU27 カ国のシェアは、最近、平均レベルの 6.6%を超えている。

ホワイトオーク:

6月時点で、ホワイトオークの EU27 ヶ国への輸出量は前年比最大の減少率-19%となったが、出荷量としては依然として最大の品種であり、米国から同地域への広葉樹材輸出総量の 38%を占めている。さらに、今年上半期、米国産ホワイトオーク輸出総額に占める EU27 ヶ国向けの割合は 13%と、昨年よりはるかに少ないものの、それでも月間 6,300 立米(270 万 BF)に達している。さらに、これはホワイトオークに対する EUDR の直接的な影響が、他のどの樹種よりも大きいことを意味している。

EU27 カ国以外の欧州市場(英国など)へのホワイトオークの出荷量は、今年上半期には前年同期比で 72%増加したものの、これらの出荷の平均単価は 15%減少し、EU27 カ国への平均出荷価格よりも 100 米ドル低い。ホワイトオーク材の価格が上昇し過去最高値となる中、これら 2 市場への一般等級材の輸出量が大幅に増加しているが、その増加は英国への輸出の方がより顕著である。したがって、EU の債務救済に関連して EU27 カ国への輸出が停止された場合、FAS/1F の輸出に多大な影響を及ぼす可能性がある。

レッドオーク:

今年上半期、EU27 ヶ国へのレッドオーク材の輸出量は前年同期比で 4%増加し、欧州全体のレッドオーク需要の 87%を占めた。また、今年上半期の英国へのレッドオーク出荷量は 23%減少しており、EUDR がレッドオーク完全に停止すれば、欧州のレッドオーク需要はほぼ消滅することになる。しかし、EU27 カ国が世界のレッドオーク需要に占める割合は現在 5%に過ぎず、2023 年から 1 ポイント減少している。したがって、世界的な観点から見ると、EUDR のレッドオークの輸出に対する脅威は、ホワイトオークよりはるかに小さい。しかし、今年上半期の EU27 ヶ国へのレッドオークの月平均輸出量は 3500 立米(150 万 BF)であり、特に米国のレッドオーク材の国内需要が比較的弱いことから、世界的な需要が大幅に弱まることが考えられる。

さらに、他の市場と比較してホワイトオークよりもさらに重要なのは、EU27 カ国及びより広域の欧州は高価格のレッドオーク市場であり、平均出荷量は世界の他の地域よりも 31%高いことである。EU27 カ国での生産停止により、アメリカ産レッドオークの総輸出需要は 5%減少すると思われるが、FAS/1F レッドオークの世界需要の減少幅はさらに大きくなるであろう。

ポプラ:

EU27 ヶ国向けのポプラ輸出量はレッドオークよりやや少ないが、その割合は 11.6%である。さらに、オークと比較すると、EU27 ヶ国におけるポプラの市場価値ははるかに高い。今年上半期、米国の EU にポプラの全輸出量が 11.6%、世界全体に対するポプラ輸出量は 17.1%を占めた。平均出荷量は世界の他の地域より 58%高かった。したがって、EUDR がもたらす影響に関わらず、主に高級ポプラの輸出が対象となるだろう。

アッシュ:

ホワイトオークと同様、2024 年上半期に EU27 ヶ国に輸出されたアッシュの量は-39%と、昨年と比べ大幅に減少した。現在、EU27 ヶ国のアッシュ需要がヨーロッパ全体に占める割合は 55%にとどまり、昨年の 68%より少ない。また、世界需要の 6%にも満たない。アッシュ材の単価は、EU27 ヶ国の市場間では大きな差があるものの、平均すると、今年上半期に英国に出荷された商品よりも 15%低い価格となっている。英国は、木材購入に関しこの地域で唯一の非 EU 市場である。したがって、ホワイトオークの場合とは逆に、英国へのアッシュの輸出を停止した場合と比べると、EU27 カ国へのアッシュの輸出を停止した場合の方が、高級アッシュ材の輸出への影響は小さい。

クルミ:

今年上半期に米国から EU27 カ国及び EU 以外の 2 カ国(英国、ノルウェー)に輸出されたクルミ材の総量は、前年同期比で 11%減少した。EU27 ヶ国向けクルミ材の平均単価は前年同期比で 5%下落しているものの、英国向けクルミ材の平均単価よりも 32%高い。したがって、英国では需要が低等級品に移行しているようであるが、EU27 カ国市場ではさらに FAS/1F を志向している。そのため、ホワイトオークやアッシュ材と同様に、EU27 カ国へのクルミ輸出の停止は、クルミ総需要に占める EU27 カ国のシェア(4%)よりも、FAS/1F 材の世界需要に対してさらに大きな影響を与えることになる。